

アルミパイプ構造材GFを多方面に活用した 環境マネジメントシステムへの取り組み

株式会社ダイシン様

GFの使い方と言えば、作業台やラック、シューターなどが一般的。今回は、なんとトラックの荷台にGFを用いたユニークな事例を紹介しながら、工場内の環境設備改善に積極的に取り組む株式会社ダイシン様を取材させていただきました。

「エコアクション21」の取得を機に 環境設備の導入ヘシフト

車のエンジンやさまざまな設備を正確に作動させるために必要な電線や情報回路をコンパクトに束ねたワイヤーハーネスと呼ばれる電装部品。こうした部品のPCB用コネクタを成形、アセンブリを行うダイシン様は、「富士山静岡空港」の開港（2009年3月）で注目が集まる静岡県牧之原市に位置しています。工場を彩る青い外壁と山間にあふれる緑のコントラストが目に見え、清潔感あふれる会社です。

牧之原市が環境マネジメントシステム「エコアクション21※」の認証を受けたことで、市内の企業にも軒並み活動が広がり、環境に配慮した工場内設備への意識が高まったことから、ダイシン様でもアルミフレームを積極的に取り入れるようになりました。現在ではGFを使った軽作業台を中心に、ラックやコロコンなど多彩なアイテムが活躍しています。

「当社もエコアクション21の認証を受けたことで、環境に対する意識が変わりました。使用後は廃材になってしまう製品の使用はできるだけ控え、工場内で使うものは環境に配慮したものを選ぶようにしています。作業台には後から小物類を取り付けることも多いため、作業が簡単に行えるGFは、大変便利ですね。重量の関係で使えない一部の作業台を除いて、できるだけアルミフレームに切り替え、職場環境の改善に努めるよう心掛けています」と語る代表取締役社長の大石秀樹様。

少量多品種、しかも細かな作業が多いため、ダイシン様の工場内では女性が多く働いています。物流の負担を軽減させる目的で取り付けけたコロコンは、作業効率の改善にも役立ち、社内での評判も上々とのこと。女性が働きやすい職場環境づくりが進められています。

初登場 GFを使ったトラックの荷台

さらに特筆すべきはGFを使った軽トラックの荷台の幌。こちらは、なんと大石社長自らが図面を引き、部材を取り寄せて組み立てられたという力作です。

「荷台の幌は特注オプションで、本来は業者に預けて取り付けてもらうものなのです。アルミフレームなら軽くて溶接が必要ないので、これを使ったら自分たちでつくれるのでは…と考えて試してみたところ、予想以上に美しく仕上がって、大変満足しています。アルミは雨で濡れても錆びないところがいいですね。鉄でつくった幌では長く使うと錆びて黒くなってしまうので、アルミの清潔感ある美しさはお勧めです。



コロコンは作業効率UPに欠かせないアイテム。



軽量部品の収納にGFラックが大活躍。



小物が後付けできると好評のGF作業台。

費用ですか？GFのフレームとコネクタで3万円程度、シートも入れておよそ7万円くらいでしたね。

今回取材にお伺いした際にはLEDの検査照明セットにも興味をお持ちになり、購入を検討いただいております。ちらつきがなく目に優しいLED照明は、細かな検品作業に最適です。しかも従来の蛍光灯に比べ30%もの電力を削減し、長寿命化を実現。水銀や鉛などの有害物質を含まずRoHS指令にも対応しています。

ダイシン様のように環境問題に積極的に取り組む多くの企業で、SUSのアイテムをより一層ご活用いただけるよう、今後も製品の開発に努めてまいります。



大石社長自らが製作したGFを使ったトラック荷台の幌。

「エコアクション21」※とは

2005年に環境省が制度化した小企業向けの第三者認証を伴った環境経営システムです。社員数が何人であっても認証登録は可能ですが、仕組みそのものは300名以下の事業所を対象としたものです。内容はISO14001とほぼ同等であり、制度面の工夫によりISO14001の1/5～1/10の費用で構築・認証登録ができます。



雨に濡れても錆びずにいつまでも清潔です。

株式会社 ダイシン

〒421-0403
静岡県牧之原市中1346-1
tel. 0548-22-4104
fax. 0548-22-6978

